

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

秋冬野菜は 早めの作付け計画を！

春夏〜秋冬の野菜が同時進行 夏の終わりは忙しい！

夏から秋への季節の変わり目は、春夏野菜と秋冬野菜の入れ替え時期です。野菜栽培にとつては最も忙しく、重要な時期です。

夏野菜は収穫のピークを過ぎて少しずつ収穫が減ってくるので、時期を見極めて片付けを進めます。10月半ばまで収穫が続くナスやピーマンは、追肥で草勢（植物が成長する勢い）を維持します。

秋冬野菜の作付けは暑い時期に行いますが、収穫するころには気温が低くなるため、作付けが遅れると生育に大きく影響を及ぼします。適切な時期に種まきと定植を行うことが、順調に生育させるポイントです。

夏野菜の片付けと処理

夏野菜の多くは、8月中〜下旬が片付け時期です。片付けをする際は、茎葉を十分に乾燥させて軽量化するのが重要です。支柱を立てて育てるトマトやキュウリなどは、支柱に誘引したまま根を抜いて1週間程度放置し、支柱から取り外します。他の野菜も、根を抜いてその場に倒しておけば水分が抜け、重さが半分以下になります。

秋まで残す野菜の処理

ナス、ピーマンは、暑さで実の付きが悪くなるものの、涼しくなると回復し、10月半ばまで収穫が続きます。7月下旬〜8月上旬に、ナスは更新剪定と追肥、ピーマン・オクラ・ニガウリなどは追肥をして、長期間収穫しましょう。

土壌酸度の再調整

春夏野菜を片付けた後は、石灰質資材を散布して、土壌酸度を整えます。石灰不足は野菜の生育を悪くするだけでなく、病気を引き起こす要因になることがあります。石灰資材は1アール当たり10〜20キロ程度施用します。

畑の土作りのポイント

秋冬野菜を植えるときは、深く、丁寧に耕す「深耕精耕」が基本です。特にダイコンなどの根菜類は、根が土の塊や異物などに当たると、二股になったり形が悪くなったりすることがあるため、しっかりと深く耕します。堆肥は完熟したものを1アール当たり200〜300キロ程度施用し、土とよく混ぜます。全ての野菜で高畝をお勧めします。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



山内自治振興区 事務局長 美安 裕美さん

てくれる地域マネージャーの二人にはとても感謝しています。二人が動きやすい環境をつくること、そして、一緒にできることは協力するという姿勢が必要だと考え、私自身も「ごおし隊」の一員として活動しています。

山内の地域づくり

前回「庄原が好き」で紹介されたマッケインさんは、「ごおし隊」にも参加し、外国人が来られた時に、英語で山内を紹介してくれました。非常にありがたく、助かりました。今後、一緒に地域づくりをしてほしいと思います。

定住促進プロジェクト

広報しょうばら令和2年5月号の「庄原が好き」で、「ごおし隊」を立ち上げ、定住促進活動を行っている地域マネージャーの寺西玉実さん、藤田典久さんを紹介しました。今回はその二人を支える、山内自治振興区事務局長の美安さんにお話を伺いました。

山内地域では「このままでは山内から小学校がなくなってしまう。地域に子どもを増やそう」という思いから、定住促進プロジェクトが始まりました。その一環として「ごおし隊」や自然体験交流イベントがあり、交流イベントには毎回40〜70人の参加があります。この二つの事業が移住者と住民をつなぎ、顔の見える、安心できる関係を築くきっかけになっていると思います。



SNSの投稿募集中
「#庄原が好き」
で投稿！



投稿を
チェック

問い合わせ

自治定住課定住推進係
0824・73・1257